

朝の礼拝

聖書 ルカによる福音書 19章 1-10節 (新約聖書 146頁)

イエスはエリコに入り、町を通っておられた。そこにザアカイという人がいた。この人は徴税人の頭で、金持ちであった。イエスがどんな人か見ようとしたが、背が低かったので、群衆に遮られて見るができなかった。それで、イエスを見るために、走って先回りし、いちじく桑の木に登った。そこを通り過ぎようとしておられたからである。イエスはその場所に来ると、上を見上げて言われた。「ザアカイ、急いで降りて来なさい。今日は、ぜひあなたの家に泊まりたい。」ザアカイは急いで降りて来て、喜んでイエスを迎えた。これを見た人たちは皆つぶやいた。

「あの人は罪深い男のところに行って宿をとった。」しかし、ザアカイは立ち上がって、主に言った。「主よ、わたしは財産の半分を貧しい人々に施します。また、だれかから何かだまし取っていたら、それを四倍にして返します。」イエスは言われた。「今日、救いがこの家を訪れた。この人もアブラハムの子なのだから。人の子は、失われたものを捜して救うために来たのである。」

生かされる喜び

韓ドラでも、ハリウッドでも、日本のドラマでも金持ちは欲深く、ケチで、極悪非道な悪人と描かれることが多いです。いま読んでいただいたザアカイもエリコという大都会で、徴税人の頭として大富豪なので同じかもしれません。

そんな彼が病人や子ども、やもめ、貧しい人と関わるイエスに何の興味、関心があったのでしょうか。なぜ彼は人目もはばからずイエスを見たいと高い木に上ったのでしょうか。なぜ金持ちのザアカイがイエスを見たかったのか、いつも不思議に思っていました。

一般にはイエスがザアカイの家に泊まり、それに喜んだザアカイが悔い改めたと解釈されます。しかし、実は「貧しい人に施します」「四倍に返します」とあるのは原典では未来形ではなく**現在形**です。つまりザアカイは（既に）施していて、四倍に返していたのです。

それでザアカイがひと目イエスを見たかった理由がわかりました。彼はイエスに会う前から、イエスと同じ思いだったのです。ザアカイは自分の富を貧しい人と分かち合い、自分が生かされていることに気づいたのです。彼はその喜びと感謝をイエスに伝えたかったのです。

（しばらく黙祷しましょう）

慈しみ深い主よ、あなたは私たちの心に、いつの間にか、気がつかないうちにあなたの愛の種を蒔いてくださっています。どうか互いに持てるものを分かち合い、共に学び、生かされている喜びに与らせてください。どうか今日一日もすべてをあなたに委ね、喜びと感謝のうちに過ごさせください。主イエス・キリストによってお願いいたします。アーメン